

# 民報あばしり

NO.1008

2015・2・22

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
電話四三・四四五八  
F 四三・四四五七



## 就学援助が拡大!

新年度予算について市長から16日に各党派に対して説明がありました。その中で、いくつか日本共産党議員団が質問で取り上げていた問題が新年度予算に盛り込まれています。その一つが、就学援助費目の拡大です。

就学援助制度は、「経済的理由により就学が困難な児童生徒に対する、学用品代や給食費などの援助、義務教育については憲法26条、教育基本法4条に基づいて授業料が無償になつており、教科書も無償で配布されますが、なお経済的な理由により就学が困難な児童生徒については、必要な援助を講じなければならぬ」とされています。

市町村が実施する就学援助の内、国は、事業に要する経費について補助を行つています。国は、この間、補助対象品目を新たに「クラブ活動費、生徒会費、PTA会費」についても認めていたことから、日本共産党議員団は議会で取り上げ、実施を求めてきました。

最近の調査で、子どもの貧困化が問題になっていますが、小中学生の15%が就学援助を受けていて過去最高を更新しているとの報道されていますが、新年度から就学援助の補助対象が3品目

拡大なることで、保護者が安心して子どもを学校に通わせることができます。



就学援助の拡充

## 津波対策の避難路が実現

海岸近くの津波対策として、津波発生に備え、高台への避難路の整備を行うために津波避難路整備事業費として、2ヶ所4,940万円が計上されます。

場所は市内南8条東7丁目と台町2丁目をつなぐ階段(通学路としても通行しています)を全面改修して避難路として一新するものです。もう一ヶ所は、藻琴の国道244号藻琴跨線橋手前から藻琴神社までの階段を避難路として改修するものです。

いずれも津波が来た場合、住民の方が自力で避難するためにつくられるものです。今後も高台への避難路が必要な箇所がありますので、議員団としても質問等を通じて地域住民の皆さんの願い実現のため頑張ります。



台町へ上がる階段



藻琴神社へ上がる階段

## いよいよ東奔西走

先週、市営住宅に住む高齢の女性が「ぜんそくの発作で苦しい」と119番に救急要請しましたが消防の救急車が出動先を誤り、5分遅れで到着したが、搬送先の病院で死亡した事件がありました。病院でも「死因との因果関係はわからない」としていますが、ぜんそくは発作が始まると苦しさが増していき一刻を争うといえます。5分と言いますが遅れは遅れで致命的です。通報の住所は合っていたと言いますが、地図検索システムの間違った地図表示が出た時点で確認したらもっと早く着き事態も変わっていたでしょう。消防は今回を教訓に再発防止に努め救急車の原点を再確認してほしいと思います。

## 菊地ひろしままっしぐら

大曲団地の市営住宅を訪問した友人が「階段の手すりのキャップが取れていて危険ではないか」と教えてくれました。全ての市営住宅の現場を確認することはできませんでしたが、行ってきました。リバーハウスB2棟の階段手すりの一部が破損して、中のアルミニウムの心材がむき出しになっている所と、キャップの取れている箇所がありました。冬のこの時期は足下が危なく、ぶつかると大ケガをすることも考えられます。町内会からも要請があるかもしれませんが、緊急でしたので私の方からも対応をお願いしてきました。市営住宅の危険箇所がないか総点検が必要だと感じました。

## 松浦奮戦メモ

先週の土曜日の午後、後援会員と支持者宅を訪問しました。出発したところから少しづつ雪と風が強まってきました。3軒・5軒と回るうちに段々と吹雪模様になってきました。訪問先では、「こんな天気なのに、ご苦労様ですね」とか「吹雪いているのに頑張ってますね」など励まされました。めげそうになりながらも、一緒に回ってくれている女性が、頑張ってくれるので、私も頑張らなくちゃダメと思って2時間回り選対事務所に戻りました。さすがに足元が雪で歩きにくいため疲れしました。しかし、市議選はこれから本番ですから体調も考えながら4月26日の投票日まで、後援会員や支持者のみなさんご協力をいただきながら奮闘したいと決意しています。

## 流水

今年「国際土壌年」に当たり、そこでは持続可能な農業に貢献した家族農業の役割が高く評価されました。▼わが国でも先進的な農業者達も多くが、化学肥料や農薬の多使用に土づくり、森林や水田の保護・活用を進め、地力の増進をはかってきました。▼しかし一方では国の進める悪名高い「減反政策」と言われる農業破壊。投げ捨て政策が60年も続く中で農業・農地の劣化は極度に進み、「かつての美田、今は雑草が生い茂る」有様です。▼最近、国連に指図された次のような報告書を作成しましたが、その中でも国の責任には全く触れずじまいです。その報告書は「長寿を支える健康な食事のあり方」。この中で国は自分の責任をそつちのけにして、わが国の20〜30歳代の食事のバランスが特に乱れている。と▼しかし、食料の国内生産を軽視する現状では健康な食事の材料すら入手が困難なのが現実で、厚生省の文書はまさに絵に描いた餅に等しいものではないでしょうか。▼豊かな土地づくりを基礎とし、持続可能な農業生産物・食品の生産を今すぐ取り戻すことに直ちに取組むべきでしょう。(K)